

震災に堪えた骨組みを再利用した木造のギャラリー

所在地：福島県耶麻郡猪苗代町字新町
 竣工：2013年5月
 設計・総合：柴崎恭秀
 屋根の構成：スタイロフォーム t50 PBTt2.5
 構造：AUM 構造設計
 構造用合板 t24 の上
 施工：会津土建
 アスファルトルーフィング 940
 溶融亜鉛メッキ鋼板 t0.4 横葺き
 構造／規模：木造軸組構造一部鉄骨造／2階建て
 面積：(敷地) 1,457.59㎡
 (1階) 137.53㎡
 (2階) 80.69㎡
 (延床) 218.22㎡



2階東側から西側カーテンウォールを望む



西側カーテンウォール夜景



西側外観全景



西側吹抜けとカーテンウォール

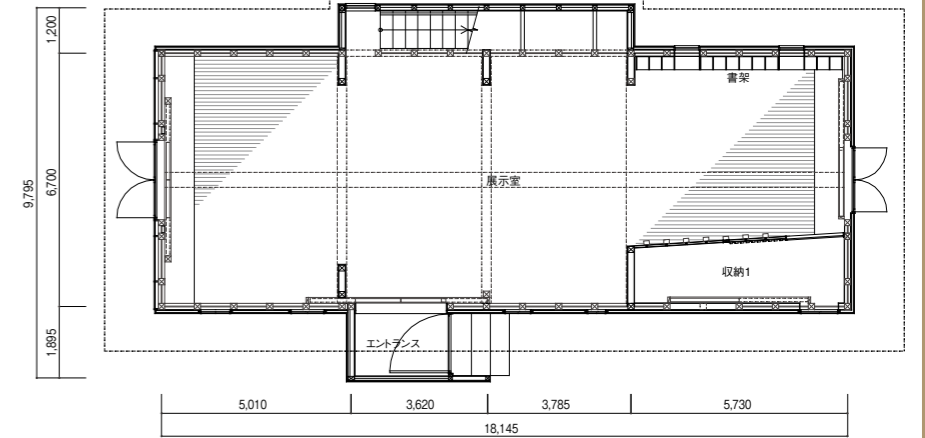
建物について

猪苗代町の酒造作業蔵として1889年に竣工したこの土蔵は、1888年の上棟時に磐梯山噴火で著しく損傷した歴史を持つ建物である。東日本大震災で再び被災し全壊判定を受けるが、磐梯山噴火当時も地域の復興のシンボルとして竣工したこの蔵を、再び東日本大震災の復興のシンボルとしてリノベーションした。骨組みのみとなった蔵を、地盤改良した敷地内の新設基礎に伝統曳き家によって据え直し、様々な伝承を意匠に置き換えて地域の記憶を留めるギャラリーに再生している。

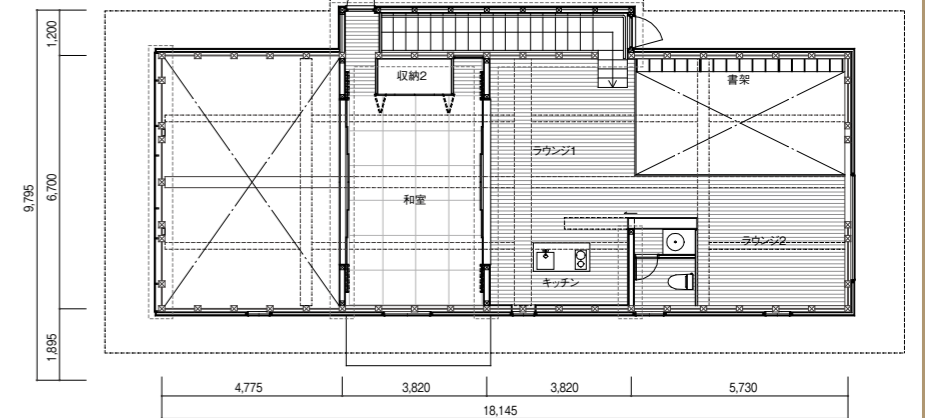
屋根と合板について

もともとの蔵は、この地域に多く見られる置き屋根形状で、再生もこの置き屋根の意匠を継承した。被災の損傷が著しい置き屋根部は今回新たに設置している。当初の五寸勾配よりも少し勾配をきつく設定し落雪を促すこととした。また、軒先をシャープに見せる目的で厚物合板24mmを採用し、金属屋根端部を極限まで薄くすることで水平線を強調する軒先とした。内屋根と置き屋根の間に照明を設置し、夜はこの軒を照らして軒先の浮遊感を際立たせるようにしている。

平面図・1階 (1/200)



平面図・2階 (1/200)



断面詳細図 (1/100)

